

学生と学者の共同

31日、国会周辺で行われた「安全保障関連法案に反対する学生と学者の共同行動」は、これまで培ってきた連帯の中から生まれたものです。学生と教職員が連帯した運動をさらに強めていくことを確認しました。

学生たちでつくる SEALDs (シールズ) は、「Students Emergency Action for Liberal Democracy」の頭文字をとったもの。「自由と民主主義のための学生緊急行動」といいます。

憲法の価値を守る

秘密保護法に反対し

てきた学生たちが、これから毎週金曜日夜の国会正門前抗議行動を続けました。「私たちは、戦後70年ですくりあげられてきた、この国の

から毎週金曜日夜の国会正門前抗議行動を続けました。6月15日、初め

「6月、あの大雨の日から金曜抗議は金曜講義でもありました。皆さんの先生方から私たちが言葉や記憶、想いを手渡されている。そんな実感があります。学生も、かつて学生だった皆さんも、

国会前の行動で培った連帯 学問と良識の名で戦争法案反対

自由と民主主義の伝統を尊重します。そして、その基盤である日本国憲法のもつ価値を守りたいと考えています。

2678人。7月31日現在の賛同者は、1万2644人にのぼっています。

この連帯を強調しているのが特徴です。こうした学者たちのスピーチを、学生たちはどんな思いで聞いていたのか。SEALDsは、ツイッターでその一端を表現しています。

「安全保障関連法案に反対する学者の会」は、学問各分野の代表的な学者61人が呼びか

「安全保障関連法案に反対する学者の会」と良識の名において、東京大学名誉教授の樋口陽一氏(憲法)は、

「6月、あの大雨の日から金曜抗議は金曜講義でもありました。皆さんの先生方から私たちが言葉や記憶、想いを手渡されている。そんな実感があります。学生も、かつて学生だった皆さんも、

(内藤豊通)

安全保障関連法案に反対する

学生と学者の共同行動

集会アピール

31日、国会周辺でおこなわれた「安全保障関連法案に反対する学生と学者の共同行動」は、集会、請願デモ、国会正門前抗議行動としてとりくまれました。集会で採択されたアピールを紹介します。

7月15日の衆議院特別委員会と16日の衆議院本会議で、第3次安倍晋三政権は、安全保障関連法案を強行採決しました。私たちは、この暴挙に対して満身の怒りをもって抗議します。

各種世論調査で、国民の6割が反対し、8割が説明不足と受けとめている中での強行採決は、主権在民という

7月15日の衆議院特別委員会と16日の衆議院本会議で、第3次安倍晋三政権は、安全保障関連法案を強行採決しました。私たちは、この暴挙に対して満身の怒りをもって抗議します。

私たちは法案の撤回と内閣の退陣を強く求めます。

由な知の探求を継続していくうえでも、そして安倍政権によって行われている大学自治の破壊、各種式典への日の丸・君が代の押しつけ、人文諸科学への攻撃を押し返していくためにも、これからも持続させ、発展させていく必要があります。

この間、全国の大学で、安全保障関連法案に反対する集会をはじめとする学生と教職員が一緒になった緊急行動が急速に広がっています。学生と教職員が同じ大学人として、憲法破壊の法案に反対して、共同の行動を起こし、それを持続していることは、歴史的にも画期的な事態です。

2015年7月31日
「安全保障関連法案」に反対する学生と学者の共同行動「参加者」